

# 集会アピール

2月28日、この日比谷公会堂に集まった2000名の私たちは、次のことを訴えます。

石原都政の下で、東京都の教育、学術、文化、生活は大変危うい状態です。

教育、学術、文化の場になくてはならないことは、自律性と自主的精神です。都立の大学もその一環として、様々な権力から干渉を受けずに研究・教育を行い、また、大学改革に関する自由な議論が保障されることが必要です。そうしてこそ、学生に対し、また都に暮らし・働く人々に、質の高い教育・研究の機会を提供することが出来ます。また、学生たちは、自主的精神を身につけていくことが出来るのです。

そこで、私たちは、東京都による一方的な大学改革に反対し、大学教員の自主的な努力により改革が行なわれることを希望してきました。ところが、これを求めた「都立の大学を考える都民の会」の陳情は先の文教委員会では不採択となりました。これは、採択を拒んだ議員および大学管理本部の大学への無理解を示すものです。

石原都知事は、都立大学の夜間部廃止と短大廃止を強制し、大学側もそれを受け入れました。そして、両大学の夜間部は廃止されました。働きながら学ぶことは、生涯学ぶ機会を都民が得るために必要なはずですが、それは、進学者が限られるビジネススクールでは代わりにはなりません。

また、都立大学の教員・学生が遅々としながらも充実させてきた、障害を持つ人々に対する教育も、都が進める「新大学構想」では、忘れられています。

そこで、つぎのような大学づくりを東京都と都立の大学に要望します。学生、大学院生、教職員の意見を反映させた大学づくりをおこなうこと。短大夜間部・都立大夜間部（B類）が積み重ねてきた、社会人・勤労学生への大学教育の機会を充実・発展させること。多くの人が学べるように授業料を安くすること。障害者の大学教育の機会を充実させること。父母・都民に対して積極的に情報を公開し、都民に開かれた大学づくりを行うこと。

この集会には、大学関係以外の文化、教育、医療・福祉関係の方々も参加しています。なぜなら、大学が発展するためには、そこで暮らす人々の学習関心を育てるための環境が広く必要だからです。小中学校、高校、養護学校では、生徒の個性に即した教育をのびのびと行う基盤が大切ですし、東京都交響楽団や都立図書館などにおいても、そこに働く人々の創造的な、都民に優しい活動が保障され、都民が優れた文化を豊かに利用できることが求められます。大学で安心して学ぶには、すべての人々の生活や仕事が、豊かに保障されていなければならないはずですが、しるかに、今の都政の方針は、これに全く逆行しているとしか言いようがありません。

私たちは、都立の大学が都民の教育・文化・生活の発展とともにあることを強く訴えます。大学、学校に自主を、文化に創造を、生活基盤に豊かさを、都政には優しさを強く求めます。みなさん、その条件をつくるために、輪を大きくして進もうではありませんか。

最後に、本日の集会を踏まえ、私たちは以下の行動を呼びかけます。

1. 都民にとって本当に豊かな教育・文化・生活を実現するため、幅広い討論と協議の場を設け、学習、交流、そして政策づくりに取り組んでいきましょう。
2. 都民のための大学を実現するため、積極的に私たちの声を届けましょう。  
東京都が設けている「都民の声」に私たちの声を寄せましょう（フォーマット付）。  
東京都・都議会・文部科学省など関係機関に、働きかけをしていきましょう。  
一人でも多く、都議会を傍聴しましょう。
3. 周囲にも積極的に声をかけ、この取り組みを大きく広げていきましょう。

2004年2月28日 日比谷公会堂にて

「東京都の教育「改革」で、いま起こっていること - これでもいいのか? 都立の大学「改革」 - 」集会参加者一同